

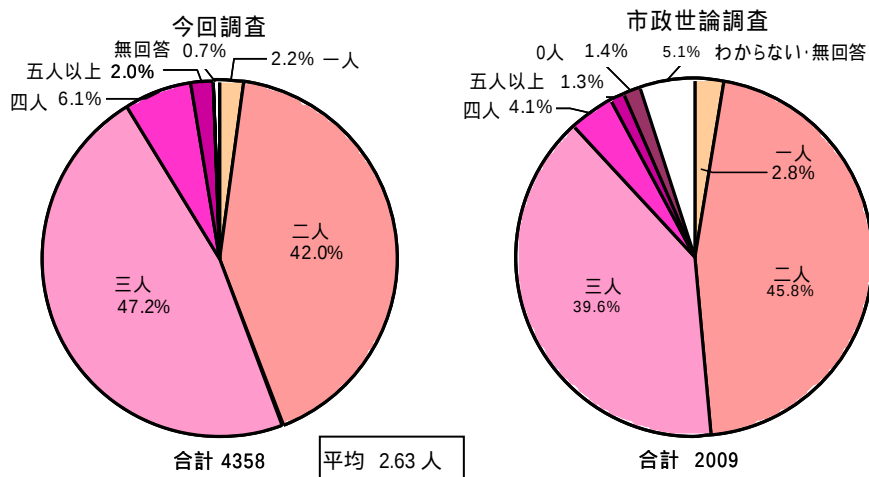
2 少子化と子育てに関する意識

*本章では、平成9年9月に実施された第37回市政世論調査（対象：名古屋市内に居住する満20歳以上の者2,500人、有効回答数：2,009人）との比較を行う。なお、市政世論調査では、今回調査と異なり、子どもの有無に係わらず、かつ、幅広い年齢層を対象にしている。

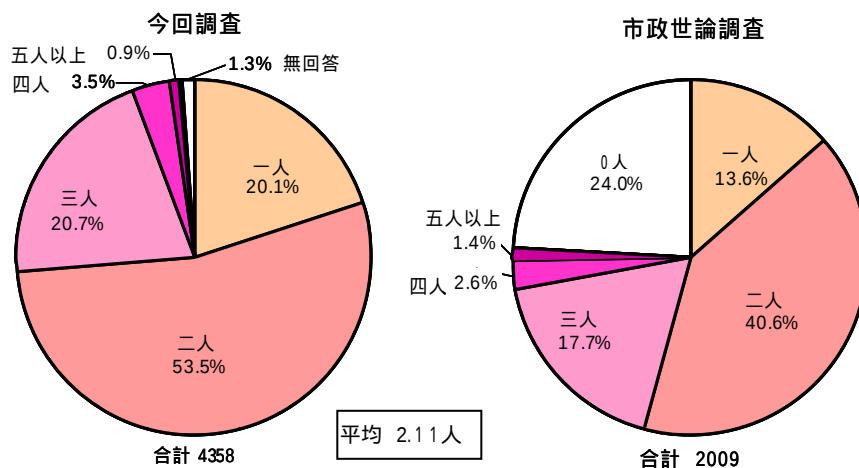
1) 少子化について

1 子どもの数の理想と現実

「あなたの理想としては、子どもは何人いるのが望ましいですか」



「あなたには、お子さんが何人いますか」



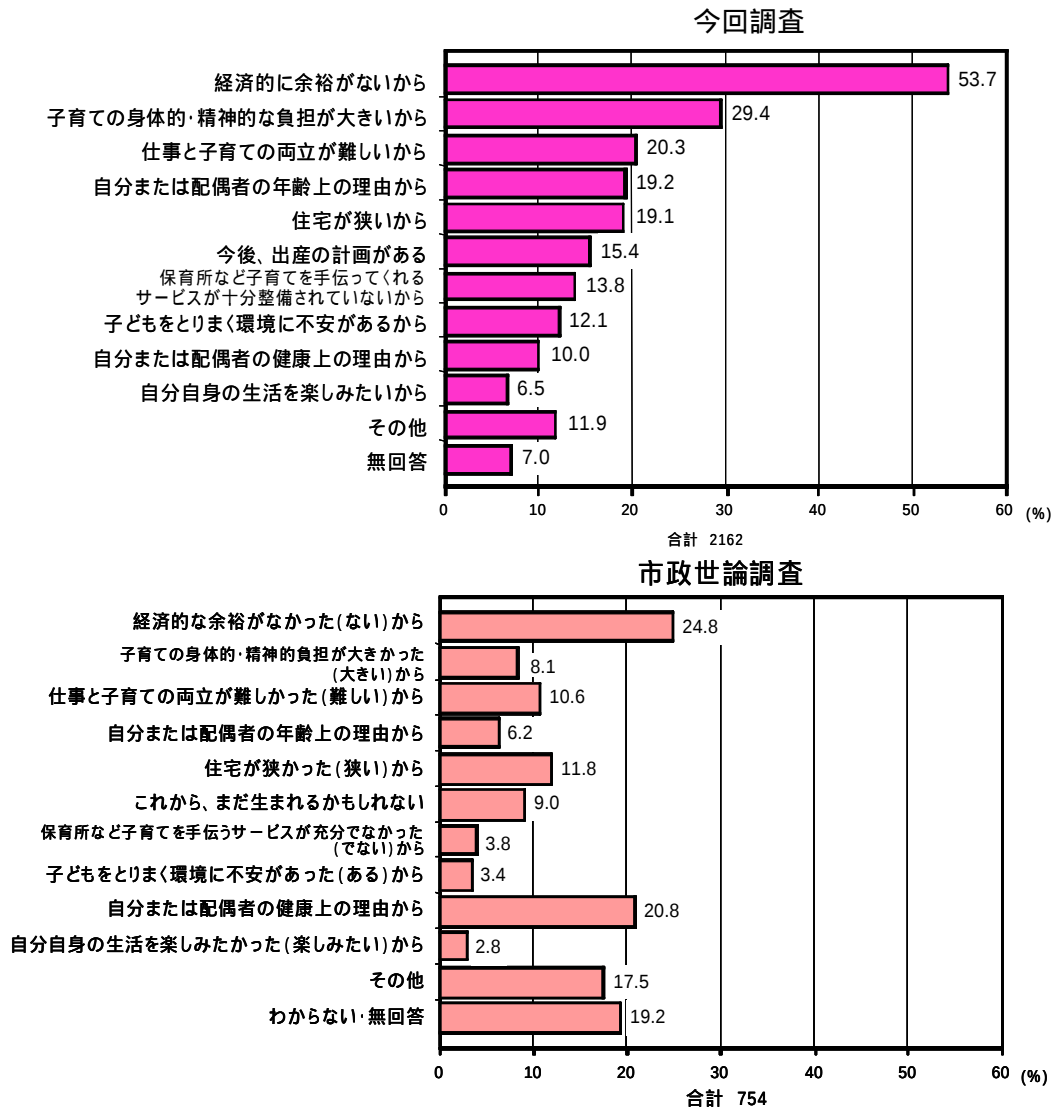
理想の子どもの人数としては、「三人」と答えた人が47.2%、「二人」が42.0%いる。一方、現実には「二人」と答えた人が53.5%、「三人」が20.7%、「一人」が20.1%である。

《市政世論調査との比較》市政世論調査では、理想とする人数は「二人」が最も多く45.8%、現実では今回調査と同様に「二人」が最も多いが、その割合は40.6%である。なお、今回調査は、子どものいる世帯に対して行ったものだが、市政世論調査は、子どものいない世帯が約4分の1ある。

2 理想と考える子どもの人数がない理由

「現在、理想と考える人数の子どもがない方にお聞きします。その理由は何ですか」

(3 つまでの複数回答)

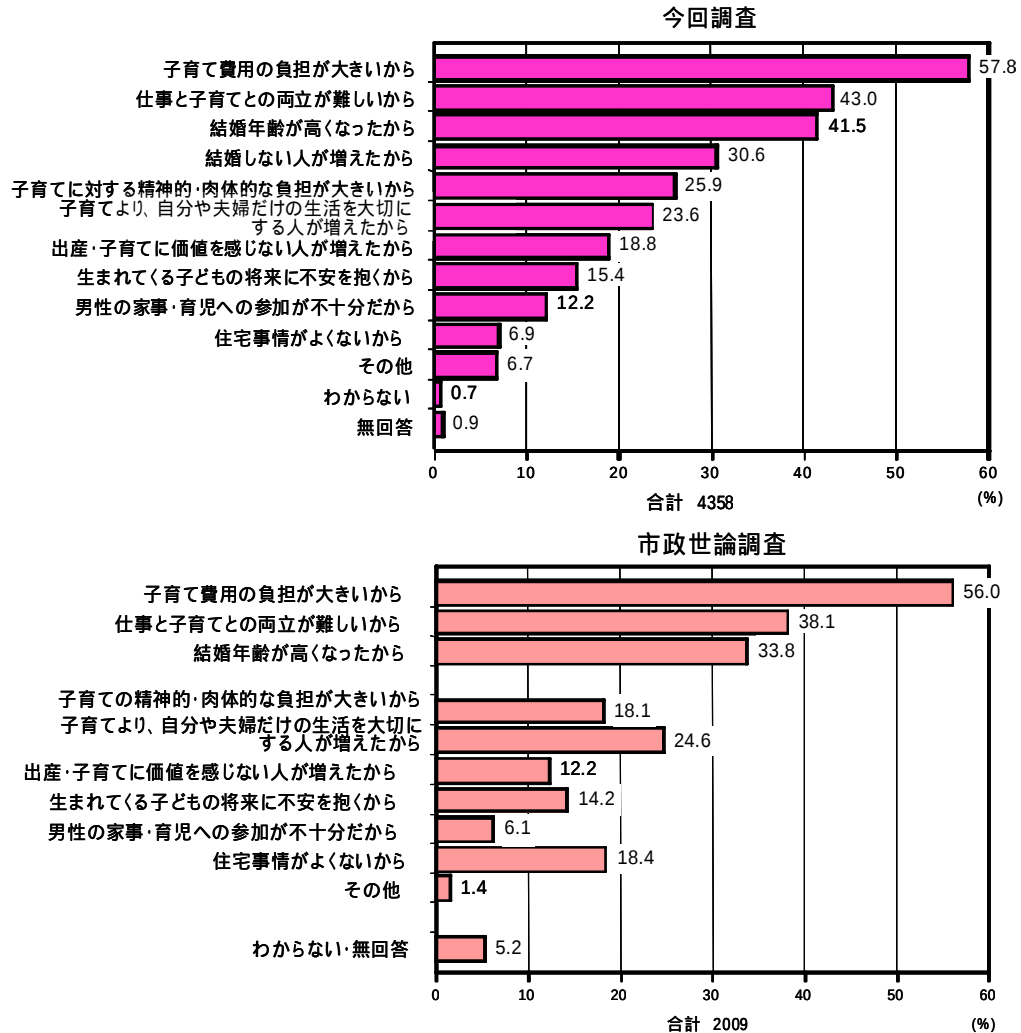


理想と考える人数の子どもがない割合は、4,358 人中 2,162 人で、49.6%であった。その理由として、「経済的に余裕がないから」をあげた人が 53.7%と過半数、ついで、「子育ての身体的・精神的負担が大きいため」が 29.4%となった。

《市政世論調査との比較》市政世論調査で、理想と考える人数の子どもがない割合は、2009 人中 754 人で 37.6%であった。その理由の第一位は今回調査と同様、「経済的に余裕がないから」であるが、割合は 24.8%。第二位は「自分または配偶者の健康上の理由から」(20.8%)である。

3 合計特殊出生率の低下理由

「一人の女性が一生のあいだに生む子どもの数の平均を『合計特殊出生率』といいます。平成 14 年には、1.32 人(名古屋市では 1.19 人)と過去最低を更新するなど少子化が進行しており、人口を維持するのに必要とされる 2.08 人を大きく下回っています。そこでお伺いしますが、出生率が低下しているのは、どんな理由からだと思いますか」(3 つまでの複数回答)

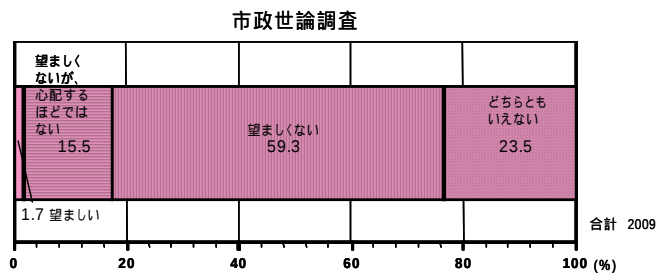
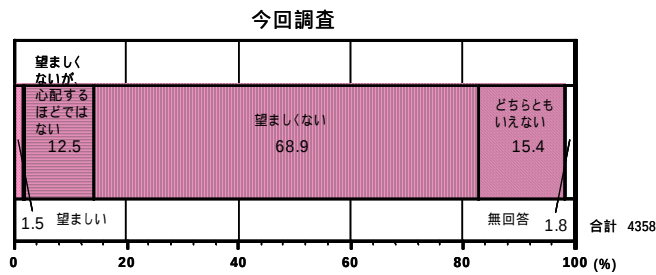


合計特殊出生率の低下理由として、「子育て費用の負担が大きいから」をあげている人が最も多く、57.8%となっている。ついで、「仕事と子育ての両立が難しいから」(43.0%)、「結婚年齢が高くなったから」(41.5%)となっている。

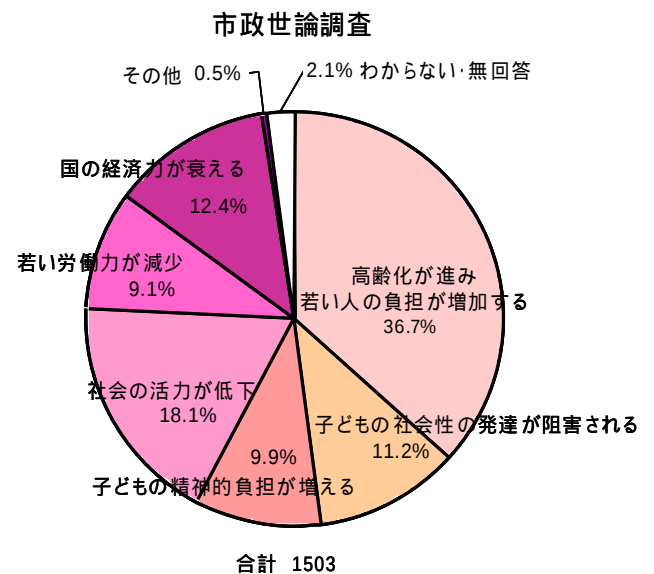
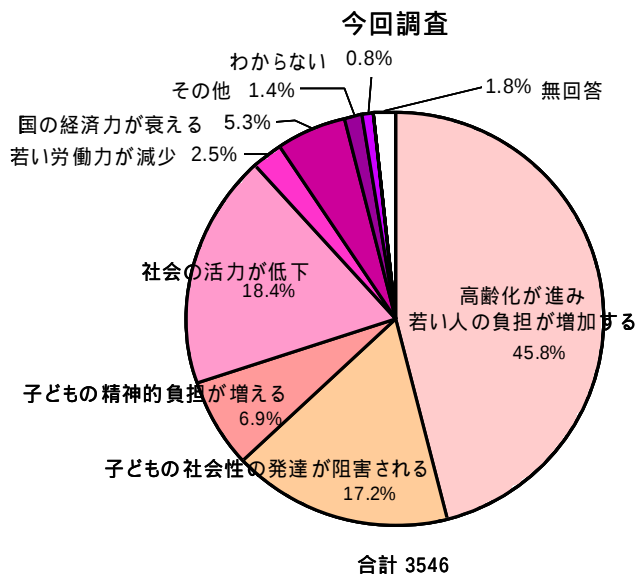
《市政世論調査との比較》市政世論調査でも、「子育て費用の負担が大きいから」「仕事と子育ての両立が難しいから」「結婚年齢が高くなったから」と、上位3位は今回調査と同じになっている。

4 出生率低下についての考え

「あなたは出生率の低下が進むことについてどのように思われますか」



「望ましくないと思う理由を一つ選んでください」



出生率低下について、「望ましくない」あるいは「望ましくないが、心配するほどではない」と答えた人が、81.4%となっている。それらの人に望ましくない理由を聞いたところ、「高齢化が進み、若い人の負担が増加する」との答えが最も多く、半数近くに達している。

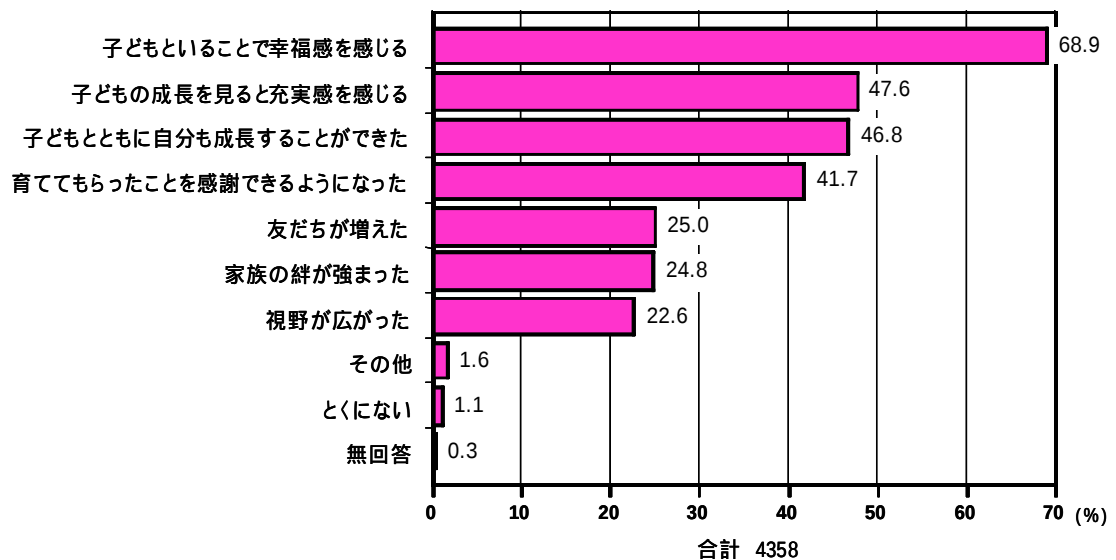
《市政世論調査との比較》

市政世論調査でも「望ましくない」あるいは「望ましくないが、心配するほどではない」と答えた人が74.8%となっており、今回調査と同様に高い。

2) 子育てについて

1 子育てでよかったこと

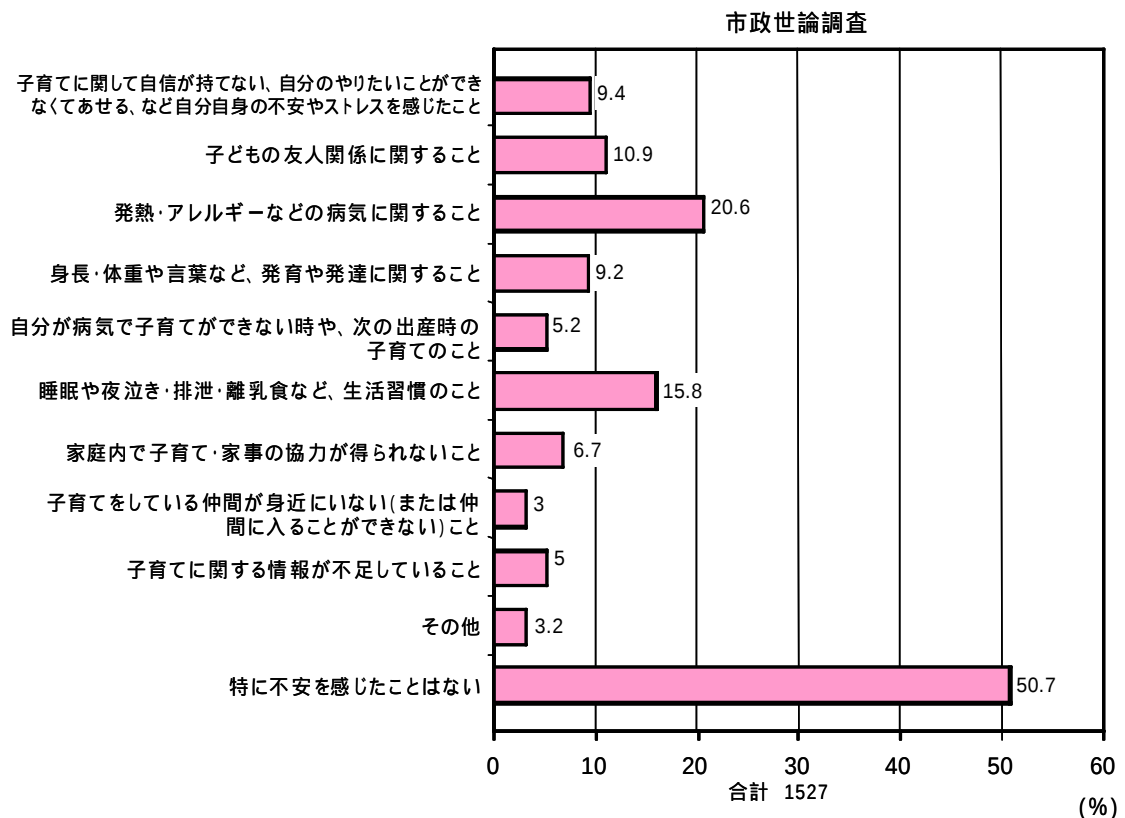
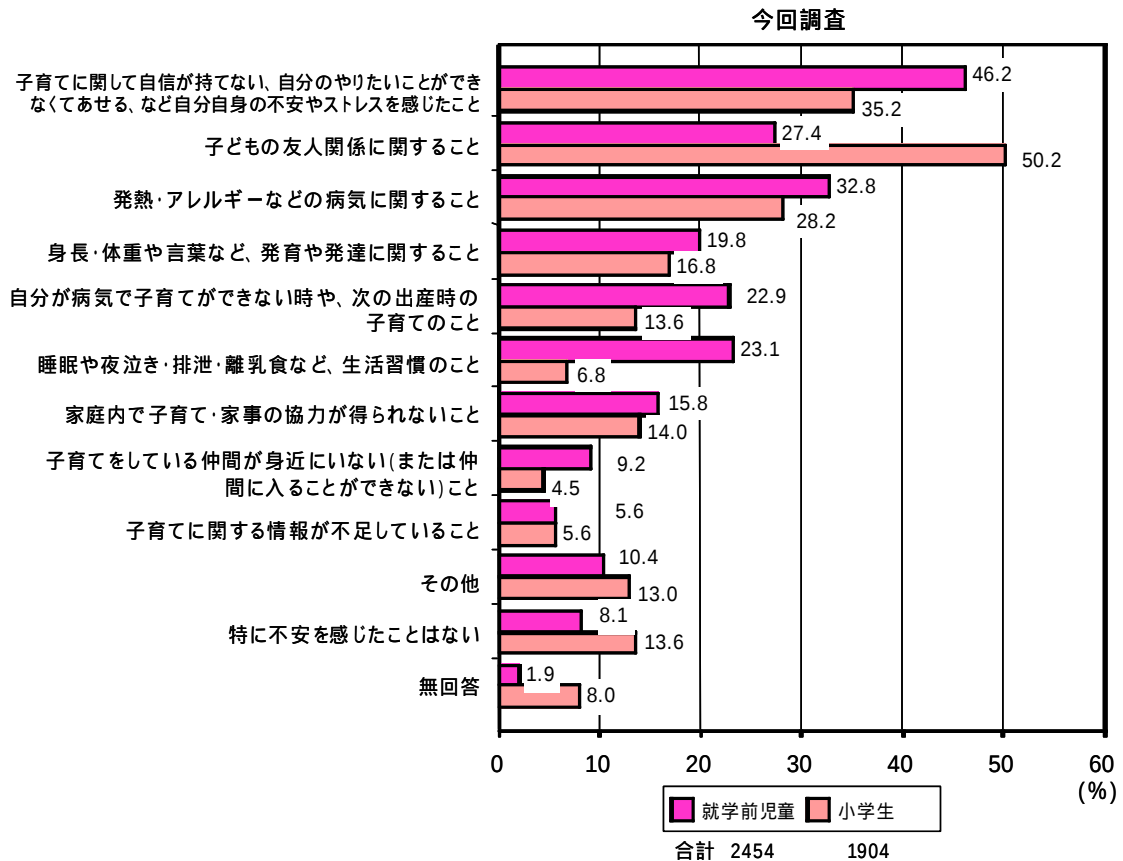
「子育てを通じて良かったと感じたことについて」(3つまでの複数回答)



「子どもといることで幸福感を感じる」と答えた人の割合が最も多く、68.9%となっている。ついで、「子どもの成長を見ると充実感を感じる」で 47.6%、「子どもとともに自分も成長することができた」が 46.8%となっている。

2 子育てでの不安や困ったこと

「子育てで、どのようなことに困ったり不安を感じますか」（3つまでの複数回答）



就学前児童では、「子育てに関して自信が持てない、自分のやりたいことができなくてあせる、など自分自身の不安やストレスを感じたこと」が最も多く、46.2%とほぼ半数、第二位は「発熱・アレルギーなどの病気に関すること」32.8%である。

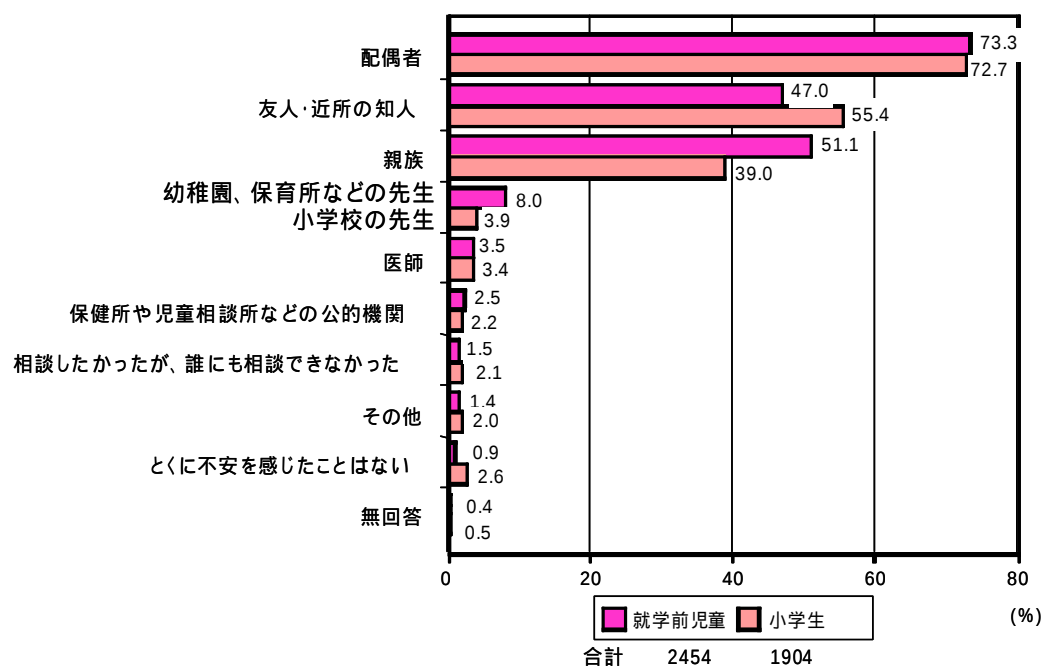
小学生では、「子どもの友人関係に関すること」が最も多く、50.2%、第二位が「子育てに関して自信が持てない、自分のやりたいことができなくてあせる、など自分自身の不安やストレスを感じたこと」35.2%である。

《市政世論調査との比較》

市政世論調査では、第一位が「とくに不安を感じたことはない」(50.7%) となっており、今回調査と大きく違う。なお、市政世論調査では、「子どもが小学校に入るまでの子育て」として聞いている。

3 困ったときの相談相手

「子育てで、困ったり不安を感じたとき誰に相談しますか」(2つまでの複数回答)

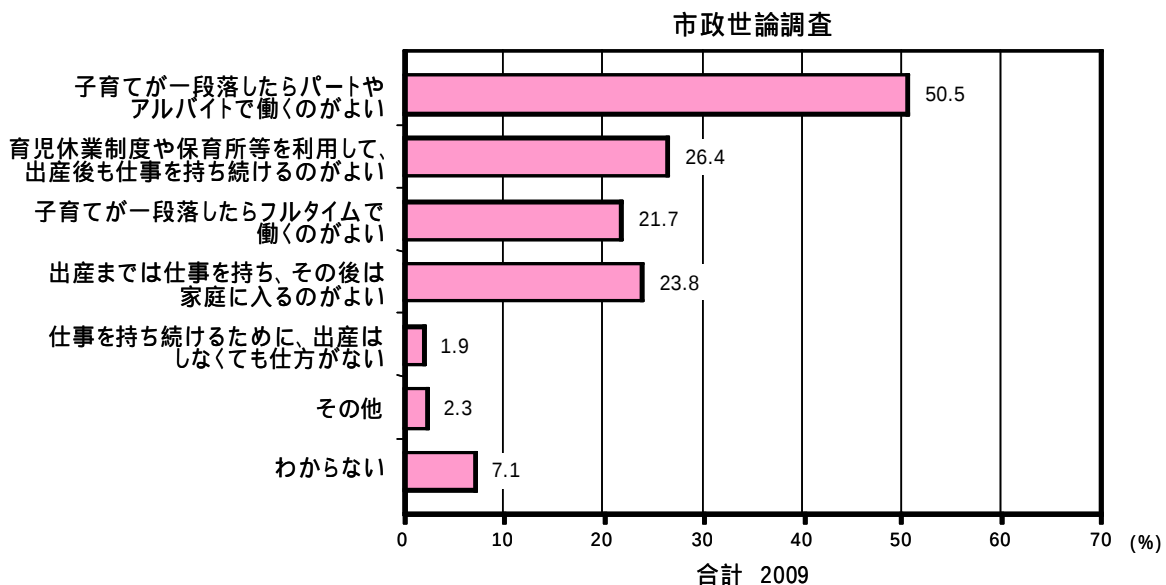
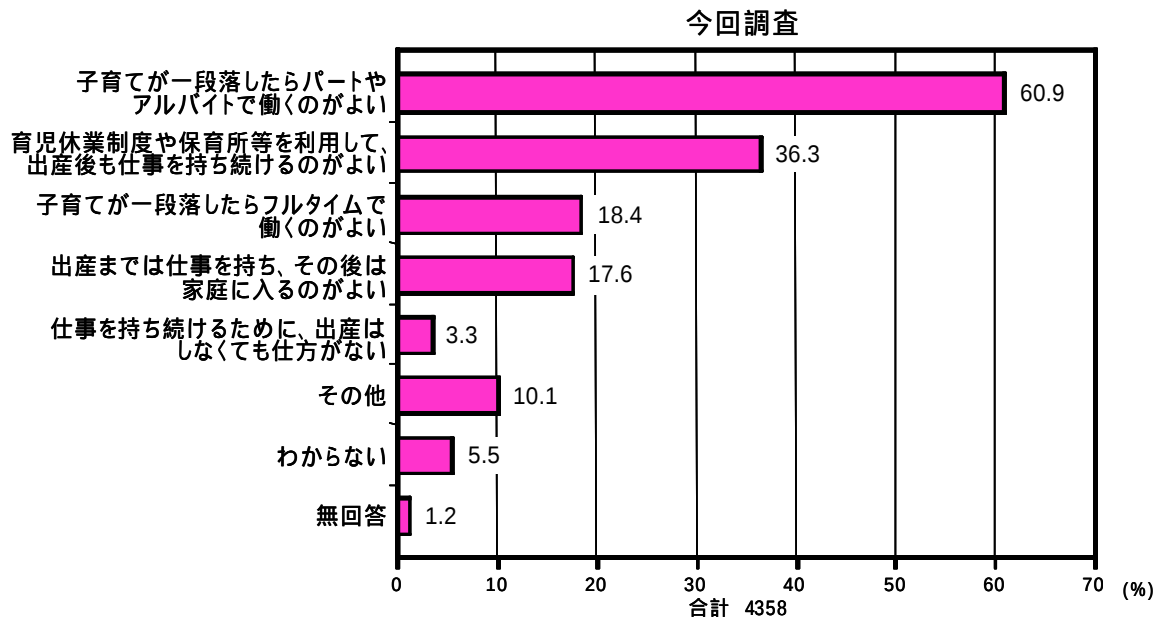


困ったときの相談相手として、「配偶者」をあげているのは、就学前児童では73.3%、小学生では72.7%で、ともに第1位となっている。ついで、就学前児童では「親族」(51.1%)、小学生では「友人・近所の知人」(55.4%)となっている。

4 女性の子育てと就労について

「女性の子育てと仕事に関して、あなたはどのような意見をお持ちですか」

(2つまでの複数回答)



「子育てが一段落したらパートやアルバイトで働くのがよい」と答えている人の割合が最も高く、60.9%となっている。第二位は、「出産後も仕事を継続するのがよい」で、36.3%。第三位は、「子育てが一段落したらフルタイムで働くのがよい」となっており、「出産までは仕事をもち、その後は家庭に入るのがよい」は僅差で第四位となっている。

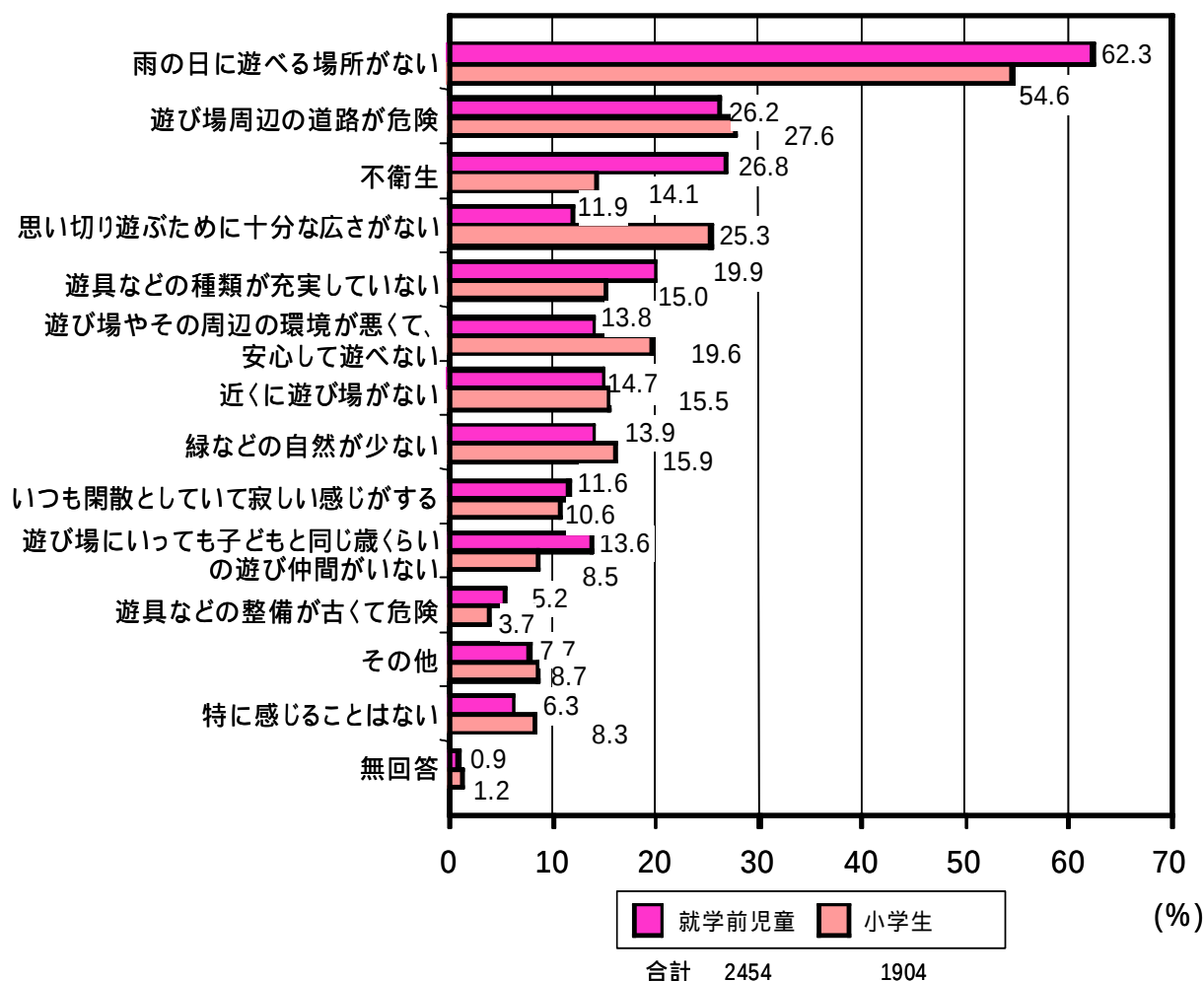
《市政世論調査との比較》市政世論調査では、「一段落したらパートやアルバイトで働くのがよい」と答えた割合が最も高かったのは同じであるが、今回調査では更に10ポイント以上高くなっている。

3) 子育てをする際の環境について

1 家の近くの遊び場について

「家の近くの子どもの遊び場について、日頃感じていることがありますか」

(3つまでの複数回答)

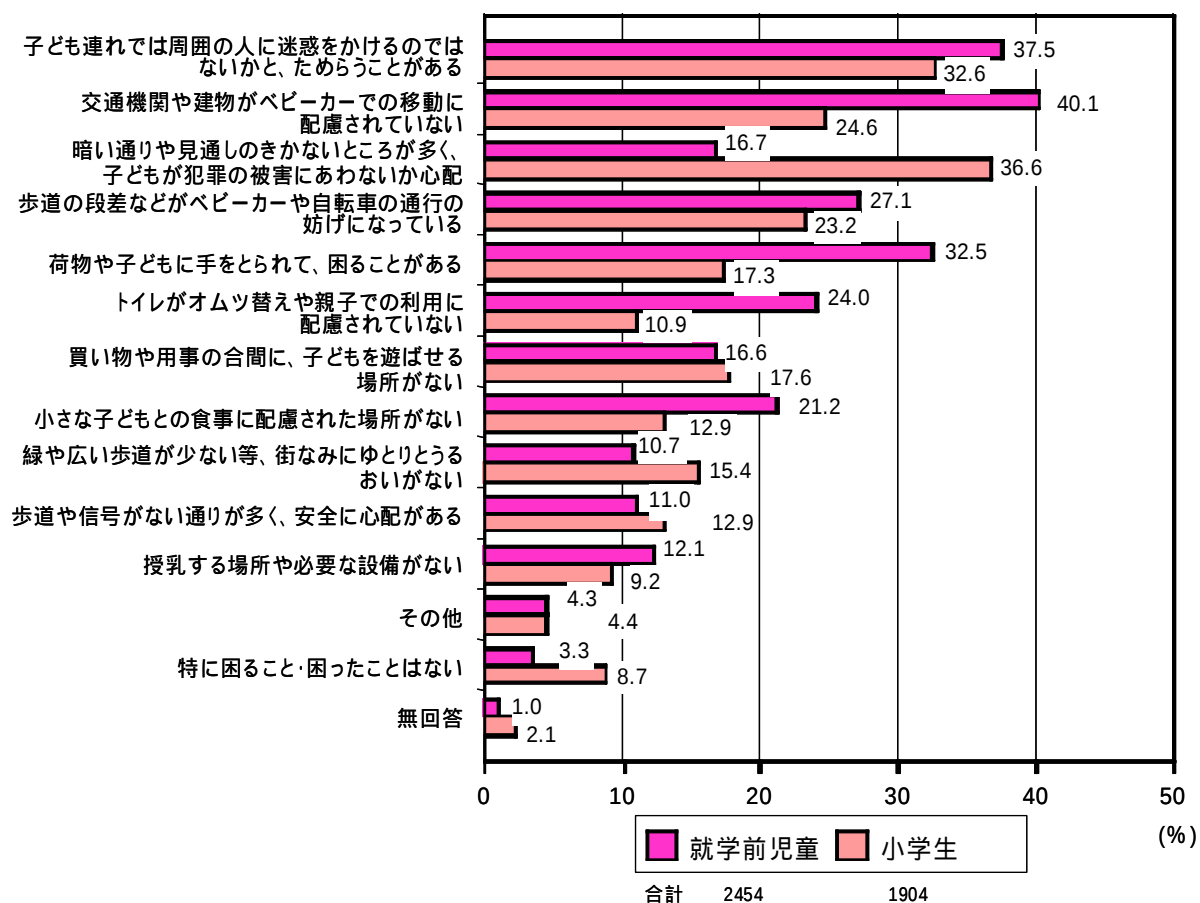


「雨の日に遊べる場所がない」をあげている人が特に多く、就学前児童で 62.3%、小学生では 54.6% になっている。ついで就学前児童では「不衛生である」が 26.8%、小学生では「遊び場周辺の道路が危険である」が 27.6% となっている。

また、「その他」の具体例として、就学前児童では「公園での子どものボール遊びに危険を感じる」、小学生では「公園でのボール遊びを禁じられて困る」という対照的な意見が見受けられた。

2 子どもとの外出の際、困ること・困ったこと

「子どもとの外出の際、困ること・今までに困ったことは何ですか」(3つまでの複数回答)

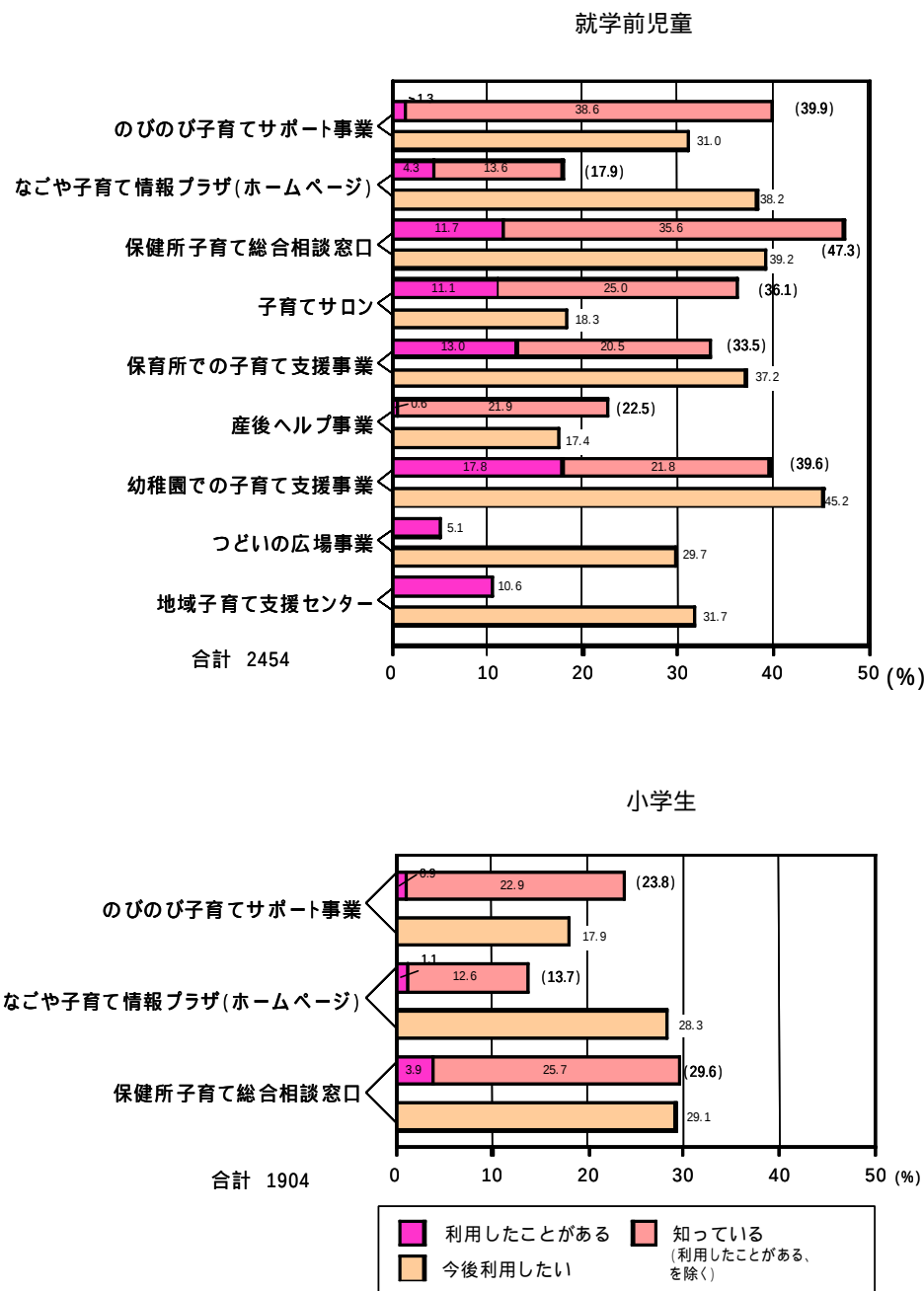


就学前児童では「交通機関や建物がベビーカーでの移動に配慮されていない」をあげた人が最も多く 40.1%、小学生では「暗い通りや見通しのきかないところが多く、子どもが犯罪の被害にあわないか心配である」をあげた人が最も多く 36.6%となっている。第二位は共通して、「子ども連れでは周囲の人に迷惑をかけるのではないかと、ためらうことがある」となっており、就学前児童では 37.5%、小学生では 32.6%となっている。

4) 子育て支援サービス等について

1 子育て支援サービス等についての認知度、利用経験、利用意向

「つぎにあげる子育て支援サービスについて、サービスごとに『知っている』『これまでに利用したことがある』『今後利用したい』かどうか、お答えください」



* 「つどいの広場事業」「地域子育て支援センター」については、調査日現在、名古屋市では未実施。平成16年度より実施。

認知度でいえば、「保健所子育て総合相談窓口」が最も知られており、就学前児童では47.3%と約半数の人が、小学生では29.6%の人が「知っている」と答えている。ついで、「のびのび子育てサポート事業」が、就学前児童で39.9%、小学生で23.8%の人に知られている。三番目に知られているのは、就学前児童では「幼稚園での子育て支援事業」で39.6%、小学生では「なごや子育て情報プラザ（ホームページ）」が13.7%となっている。

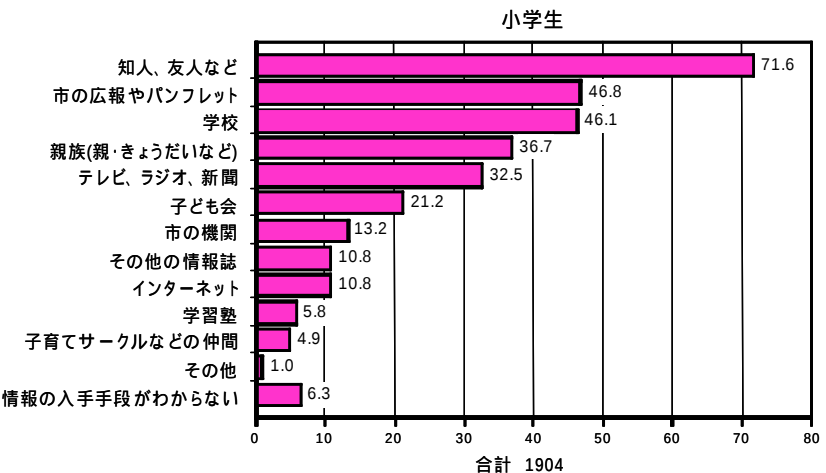
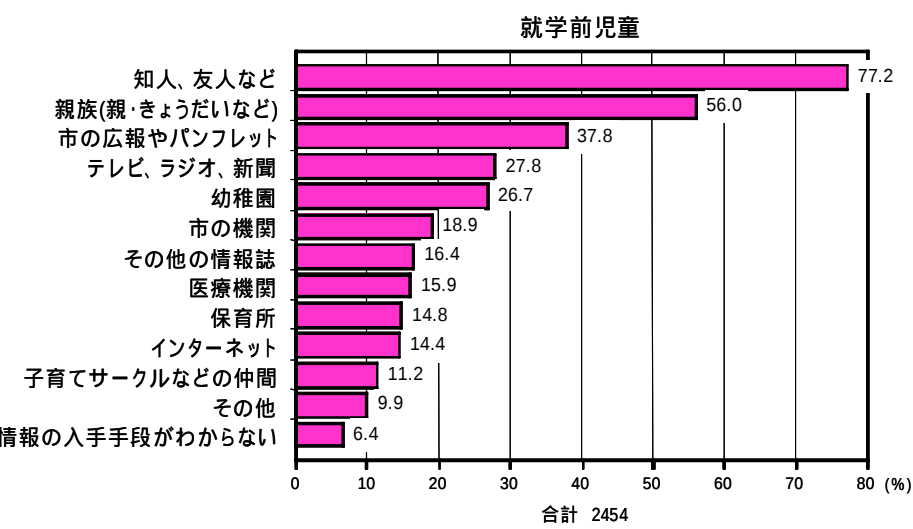
利用経験でいえば、就学前児童で、「幼稚園での子育て支援事業」（17.8%）「保育所での子育て支援事業」（13.0%）「保健所子育て総合相談窓口」（11.7%）の順となっている。小学生では、「保健所子育て総合相談窓口」（3.9%）「なごや子育て情報プラザ」（1.1%）「のびのび子育てサポート事業」（0.9%）の順であり、利用度は就学前にくらべて低くなっている。

また、今後利用したい事業としては、就学前児童では「幼稚園での子育て支援事業」の割合が最も高く（45.2%）になっており、ついで、「保健所子育て総合相談窓口」（39.2%）「なごや子育て情報プラザ」（38.2%）となっている。

「のびのび子育てサポート事業」	市民同士による子育ての相互援助活動の会員組織を運営。
「なごや子育て情報プラザ」（ホームページ）	名古屋市の子育て情報を総合的に提供するホームページ。
「保健所子育て総合相談窓口」	専任の保健師等が相談に応じる窓口。市内全保健所に設置。
「子育てサロン」	友だちづくりや情報交換を行う地域の子育て交流の場。
「保育所での子育て支援事業」	地域の子育て中の親子を対象として、行事や講座、相談などを、保育所ごとに行う。
「産後ヘルプ事業」	核家族等の家庭にヘルパーが訪問。家事や育児をお手伝い。
「幼稚園での子育て支援事業」	幼稚園が未就園の児童に対して行う各種の子育て支援。
「つどいの広場事業」	主に乳幼児をもつ親とその子どもが気軽に集う場。
「地域子育て支援センター」	保育所等において子育てに関する相談事業や情報提供を行う。

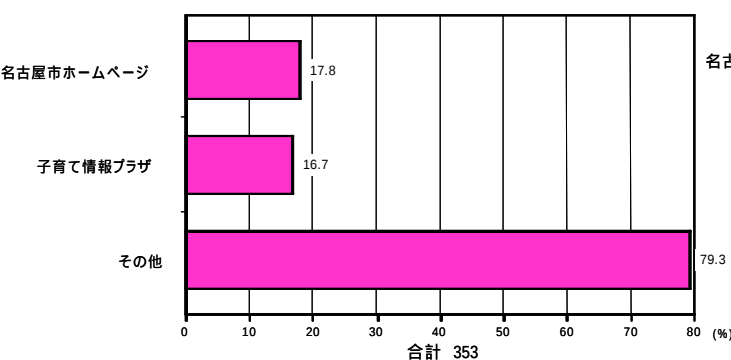
2 子育てに関する情報の入手先

「子育てや子どもの活動に関する情報の入手先はどこですか。 なお、『インターネット』を選んだ方は、その内容についても選んでください」(複数回答)

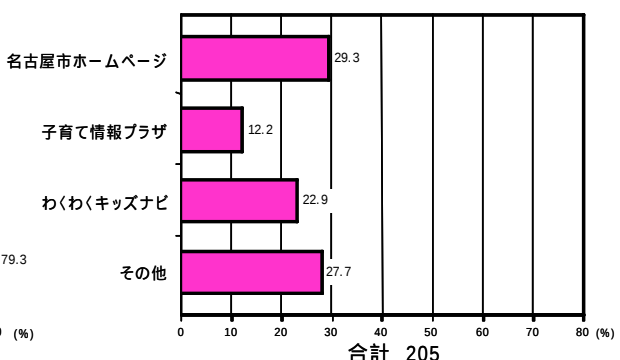


[インターネットで入手した場合の内訳]

就学前児童



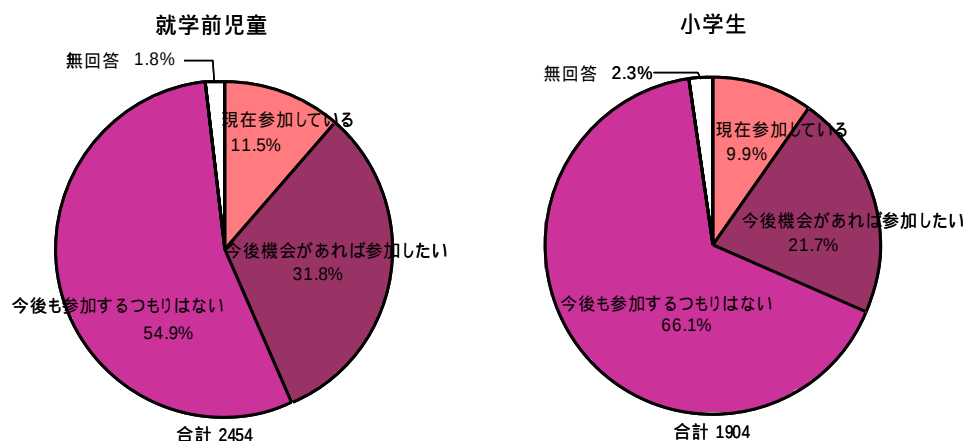
小学生



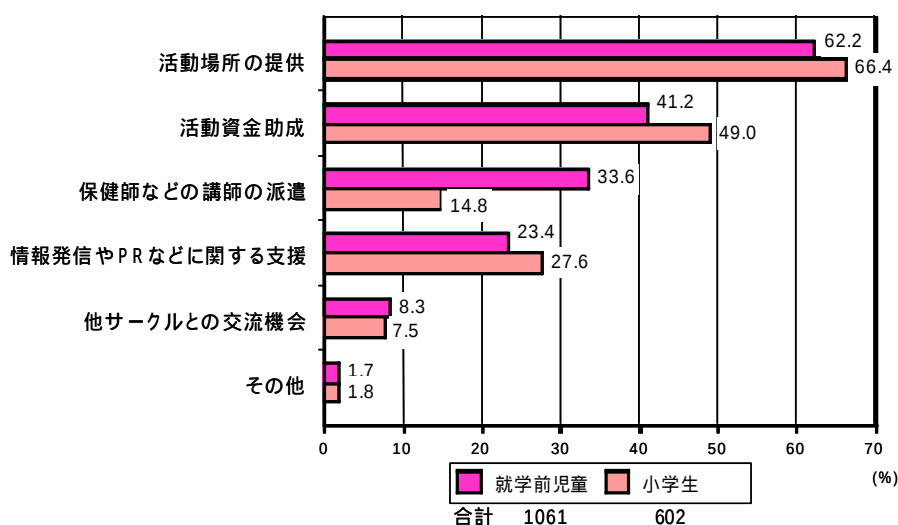
子育てに関する情報の入手先は、「知人・友人など」が最も多く、就学前児童で77.2%、小学生で71.6%となっている。また、「市の広報やパンフレット」との答えも多く、就学前児童で第3位(37.8%)、小学生で第2位(46.8%)となっている。

3 子育てに関するサークルなどの自主的な活動について

「あなたは親子の交流や子育て支援を目的としたサークルなどの自主的な活動に参加していますか」



「自主的な活動に『現在、参加している』『今後機会があれば参加したい』と答えた方にお聞きします。活動をしていくにあたって行政に行ってほしい支援はどのようなものですか」
(2つまでの複数回答)



自主的な活動に、現在参加している人は、就学前児童では11.5%、小学生では9.9%と高くはないが、今後参加したいと答えた人を含めると、それぞれ、43.3%、31.6%となっている。

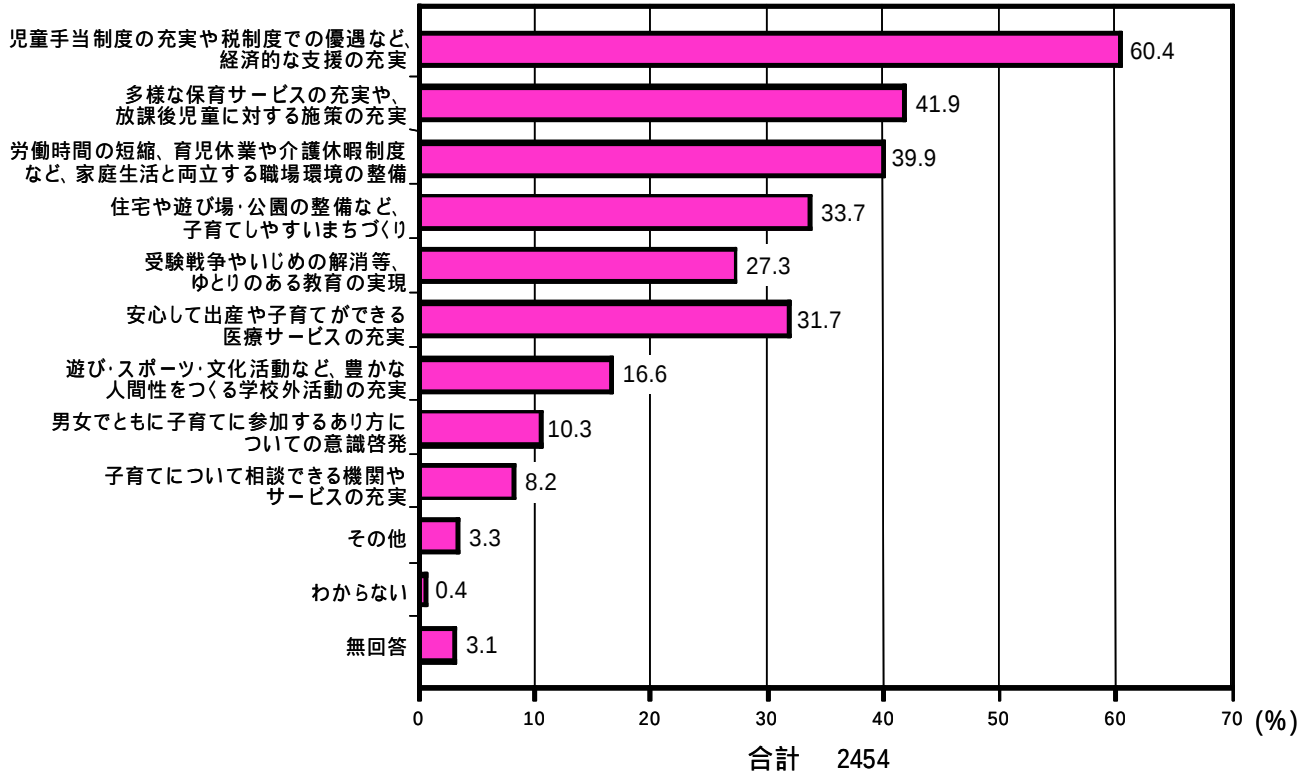
また、現在参加している人、今後参加の意向がある人に、行政に望む支援を聞いたところ、「活動場所の提供」が最も多く、就学前児童では62.2%、小学生では66.4%となっている。ついで、「活動資金の助成」が就学前児童で41.2%、小学生で49.0%となっている。

4 子育てしやすい社会を作るために、行政に期待すること

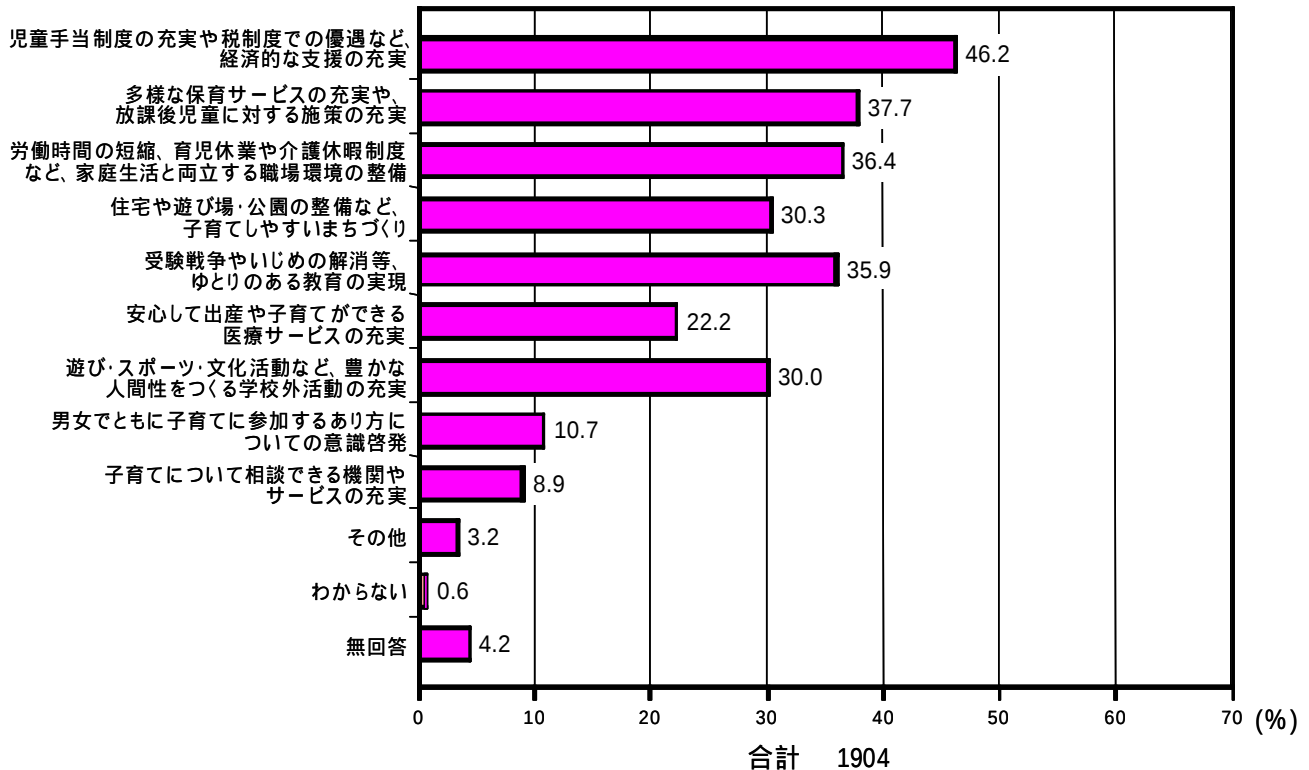
「子育てしやすい社会を作るために、国や市などの行政に何を期待しますか」

(3 つまでの複数回答)

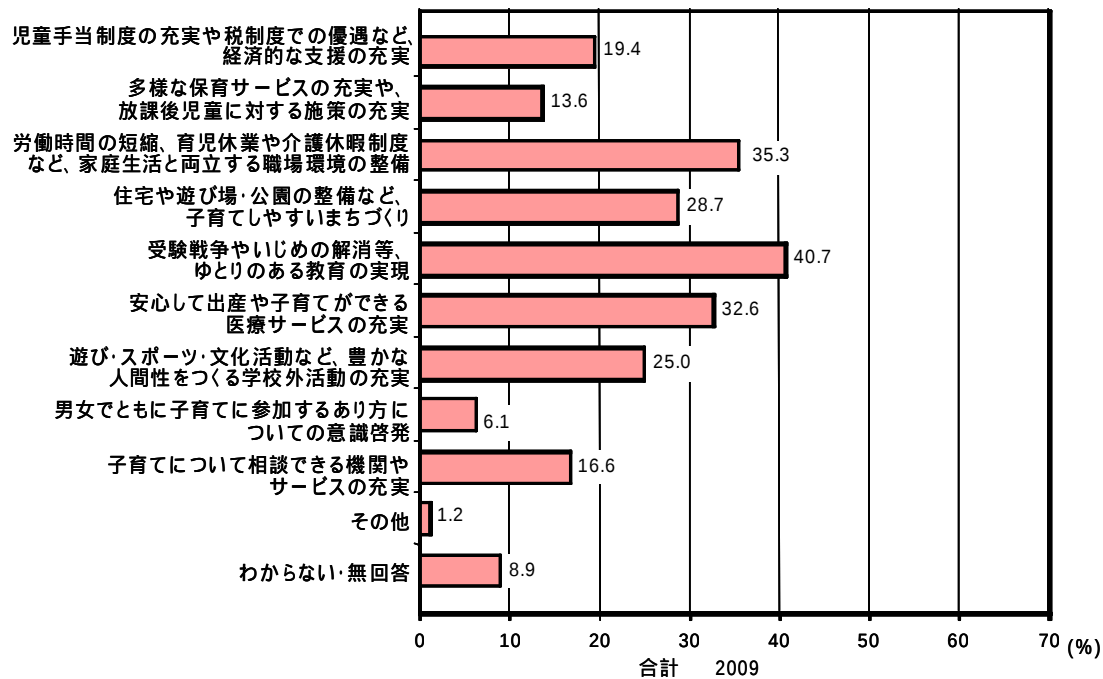
就学前児童



小学生



市政世論調査



就学前児童の第一位は、「児童手当制度の充実や税制度での優遇など、経済的な支援の充実」で、60.4%となっている。ついで、「多様な保育サービスの充実や、放課後児童に対する施策の充実」(41.9%)、「労働時間の短縮、育児休業や介護休暇制度など、家庭生活と両立する職場環境の整備」(39.9%)となっている。

小学生の上位三位は就学前児童と同じで、「児童手当制度の充実や税制度での優遇など、経済的な支援の充実」(46.2%)、「多様な保育サービスの充実や、放課後児童に対する施策の充実」(37.7%)、「労働時間の短縮、育児休業や介護休暇制度など、家庭生活と両立する職場環境の整備」(36.4%)となっているが、第四位に僅差で「受験戦争やいじめの解消等、ゆとりのある教育の実現」(35.9%)があがっている。

《市政世論調査との比較》

市政世論調査では、第一位が「受験戦争やいじめの解消等ゆとりある教育の実現」(40.7%)となっている他、「経済的な支援の充実」が第六位(19.4%)にとどまっているなど、順位がかなり異なっている。